

平成23年度第8回石狩市行政評価委員会議事録（要点筆記、委員長署名方式）

日 時：平成23年7月13日（水）9：00～

場 所：石狩市役所3階庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
委員長	松井 義孝	○	(事務局) 企画課長	松 田 裕
副委員長	長谷部 清	○	(事務局) 企画課企画担当主査	佐々木 大樹
委員	岩崎 雄三	○	(事務局) 企画課企画担当主任	笠 井 剛
委員	堀内 秀和	○	企画経済部長	佐々木 隆哉
委員	堀 弘子	○	商工労働観光課長	武 田 渉

傍聴人：1名

1 開会

【事務局：笠井主任】

それでは、第8回行政評価委員会を開催いたします。委員長よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 施策評価「観光の振興」について

【松井委員長】

おはようございます。それでは、企画経済部長より説明をお願いします。

【佐々木 企画経済部長】

それでは施策評価シートの内容を説明します。

まず、1番目の現状の評価と課題では、成果指標1、観光入り込み客数は、平成22年172万人で、17年の実績値173万人を下回っています。この決定的な理由は、どう考えても天候不順ということです。特に、本市の場合は、番屋の湯や番屋の宿以外に、とりたてて有名な観光施設がなく、どうしても天候に左右されるという状況になります。昨年場合は、週末に天気が悪かった、秋にかけては大雨が降った、ということから、残念ながら目標を割り込んだと思います。そういう状態を、一気に変えることは難しいので、海水浴場など、既に有名な観光地となっているものの魅力を高めていくことがこれからの課題であると思います。

指標2はホームページのアクセス数で、非常に順調に伸びています。インターネットを使った情報収集がどんどん広がっていることが最大の理由かも知れませんが、「鮭醤油ラーメン」など常に新しい話題作り、新しいコンテンツにより順調に伸びてきていると考えています。これからも情報の発信には力を入れて行かなければならないと思っています。

次に、施策を取りまく状況の変化ですが、観光振興は議会でも関心が高いです。また、市民とお話すると、観光は石狩の一つの資源という話を聞くことも多いです。

ただ、確かに観光の資源となる素材は、比較的多いと思いますが、今の観光の主流は施設型で、集客力のある施設や宿泊施設が勝つという形になっています。ですから、道外・海外から石狩にお客さんを連れてくることは難しい面がありますが、今、「着地型観光」というスタイルが増えてきていますので、そういった取り込みが必要かと思っています。

また、番屋の湯・宿は、最大で年間 60 万人近く集めてきた施設ですが、この営業状況が不安定になっていますので、こういったものだけに頼らない本町地区の観光振興が必要になってきています。

最近、農商工連携を意識しながら取り組んでおり、新しい特産品を市外に売り込んでいく、いわゆる「物産振興」という視点が必要になってきています。

今後の取り組み方針は、本町地区は温泉頼みからの脱却のため、既にある海水浴場やまなすの丘公園、石狩川などがどう活かされていくかが求められると思います。また、特産品開発や物産振興の取り組みを進めて行こうと考えています。

3 つ目は、厚田海浜プールや観光案内所の設備面を改善しましたので、集客アップを考えて行きたいと思っています。以上が施策評価シートの内容です。

事前にいただいたご意見について、所見を簡単に述べさせていただきます。

まず、現状の課題認識における「リピーターの確保」ですが、着眼点として非常に重要なものと思っています。ただ、石狩市の場合は比較的リピート率は高く、5 回以上訪れている人が 36% というデータがあります。今後も、食を活かした観光を進めていくことによってリピート率の向上が図れるのではないかと考えています。

次に、衛生面など施設体制の検討についてですが、今年、石狩の海水浴場トイレ水洗化を行います。これで市内の市営海水浴場 3 か所は、すべて水洗化となりますので、そういった面も PR していきたいと考えています。

レジャーのニーズが多様化し、観光客は増えない、あるいは入り込みが落ちているのは天候のせいだけではない、というご意見がありました。現実的にレジャーニーズの多様化は進んでいると思いますが、ここ 2 年間の入り込みの減少は、海水浴客の減少数とほぼイコールとなっています。

平成 20 年 200 万人のうち海水浴客が 42 万人、21 年が 189 万人のうち 21 万人ですから、海水浴客が 20 万人減って全体で 11 万人減ったということになります。さらに 22 年が 172 万人のうち海水浴客が 21 万人で、20 年度を基準にすると、海水浴客が 20 万人減って、入り込みが 20 万ちょっと減っている、ということで現状の説明ができると思います。

次に、合併効果を活かしきれていないということについては、合併効果に何を期待するのかという話に関係すると思います。例えば、決定的な弱点として、旧石狩、旧厚田・浜益の交通アクセスが指摘されます。自動用車がないと中々行けないということです。

ただ、何も変わってない訳ではなく、厚田・浜益の資源の活用に旧石狩のノウハウを活かして、観光ツアーの企画や PR などを行っています。

また、新港の企業と浜益の果樹園が新しいお菓子を作り、ヒット商品となった例などもあります。浜益の果樹園に話を聞くと、「合併後は、旧石狩から観光に来てくれる人が非常に増えている。」という話を聞きます。合併効果というのは、どういうものを期待するかに

よって見方が変わるかも知れません。

あと、今後の方向性や施策に関する評価意見で、学校や町内会、産業団体などの活用というご意見がありました。その中で特筆すべきは藤女子大学です。お互いがメリットを受けられるよう積極的に動いていまして、これまで「石狩バーガー」や「あいロードプロジェクト」など、色々と絡んでいただいています。また、それ以外の産業団体も、観光振興には絡んでいただいています。

次に、地場の一次製品の活用については、観光振興計画でも同じ問題意識を持っています。石狩と言えば鮭が有名ですが、それに次ぐ一次製品のイメージが中々ない状況です。食を活かした観光を進めていく上で必要ですので、石狩の製品のイメージを広げていければ良いと思っています。

次に、海水浴場の水洗化をポイントにした PR というご指摘についてですが、海水浴場の魅力向上は、本町地区を振興していく上でも大変重要だと思います。水洗化は勿論、開設期間の延長、バリアフリー、監視体制や海上保安との連携による安全な体制づくり、サンドアートのようなイベントなど、総合的な取り組みによってイメージアップを進めたいと思います。

次に、厚田地区の具体的な観光対策についてですが、第一弾が厚田公園の「恋人の聖地」、第二段に海浜プールや観光案内所など、ハード面の整備をしてきたところです。

次に、横の連携のため、商工労働観光課のリードというご指摘については、全体が目標を共有し意識レベルを揃えて取り組んで行くこと、観光は地域挙げての取り組みが大事であると考えています

次に、石狩ブランドの魅力向上、特産品開発については、例えば、異業種交流の「イコロの会」や映画のロケ地になったカフェなどで、芽が生まれてきていると感じています。

また、商工会議所では、石狩ブランド確立のため、国の事業で大きく展開をしようとしており、それと連携を進めながら、まずはヒットイメージを作り、さらにそれを時の流れの中で色褪せないようにしていくことにより、石狩ブランドとなっていくと思います。

次に、他の自治体との広域連携については、既に広域観光圏という取り組みを行っており、定山溪や支笏湖の温泉、小樽などと連携した商品開発をしています。

次に、ネットやアンテナショップについては、今、販売チャンネルは多様化し、非常に大事だと思います。楽天市場でいかに売っていくかといったセミナーや農業のネット販売などに取り組んでいます。また、市外にはアンテナショップはありませんが、市内のアンテナショップとして「とれのさと」が今春オープンしており、消費者の反応を生産者が肌で感じ、この先の展開を考えて行きたいと考えています。

個別の事業で、観光センター運営事業の来館者減少の原因把握というご指摘がありました。観光センターは、それ自体を目当てにお客さんが来るのではなく、本町地区を訪れた人が立ち寄るという施設ですので、非常に健闘していると言えます。

例えば、17年度は本町地区を訪れた人の2.6%が観光センターに来ており、20年では本町地区に来た人の5%が観光センターに立ち寄っています。

観光センターへの入り込みは、この20年をピークとして21・22年と若干減っていますが、本町地区に来る人はそれ以上に減っていることから、その割合は21年度7.6%、22年度8%と増えています。今後、観光センターを魅力ある施設にしていく努力は続けるべきだ

とは思いますが、現状でもそれなりの努力がされていると評価をしています。

厚田観光施設について、施設の改修をしても誘客につながる運営はできていないというご指摘がありました。天候不良だったという要素もありますが、厚田でとれた野菜など色々な物の販売が上手くいっていないという実態があります。これは、運営に関して地域全体の意識の問題だと感じていますので、そういった意識を変えていかなければだめだという考えです。今後は、イベントなどの開催を通して、良い方向につながっていくのではないかと期待しているところです。

次に、観光振興事業のサケ定置網漁クルージングの参加者が少なく、事業の継続を検討すべきというご意見がありました。確かに、目標値301人に対して77人という結果であり、成果が低いように見えますが、この目標値は、船の定員で満タンを設定しています。

旅行会社は最少催行人数を決めており、赤字であれば船を出しませんので、現実には77人でもペイできているというのが実態です。また、参加者からは非常に満足度の高い評価をいただいておりますので、2年目、3年目は大いに期待が出来ると考えています。

最後に、成果指標の目標値に未設定が多いことについては、次年度以降改善させていただきます。

【松井委員長】

成果指標の1や2は分析データですね。事業指標として妥当なのでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

色んな見方があると思いますが、観光施策における入り込み数は国や都道府県でも必ず指標とされています。我々としては、観光客によってお店屋さんがどれだけ儲かったか、という数字が欲しいところですが、残念ながらありません。

【松井委員長】

これは観光全体で良いか悪いのかという判断をしているということですか。

【佐々木 企画経済部長】

そうです。

【松井委員長】

結果的に、天候が悪い、交通が悪いなど、全体的に受け身という感じがします。石狩の観光活用の大きな柱をどのように考えていますか。札幌圏で石狩は距離的に良い立地条件だと思えますし、もう少し、市民との協働活用の横申しといたしますか。

【佐々木 企画経済部長】

例えば、恵庭の「花の町づくり」のように、日頃から市民が頭の片隅に観光を置いているというようなことは素晴らしいと思いますが、石狩の現状では、今持っている素材や認知されているものにもっと磨きをかけて行きたいと考えており、一般市民よりは、観光でメリットを享受できる事業者の方々に横申しを通すことが先決かと思っています。

例えば、鮭醤油ラーメンは、それまで観光振興とは縁がなかったラーメン屋さんが観光に目を向けるきっかけでしたが、そのような横串しを通す対象を増やしていくことが戦略になってくると思います。

【松井委員長】

観光面で、従来の石狩では本町地区というイメージしかできなかつたと思いますが、合併によって厚田の海岸線、オロロンラインなどのエリアを持つことになりました。そういう部分を、商工会議所や藤などの関係団体による PR、起爆剤があればいいと思います。何か仕掛けがないのでしょうか。

【武田 商工労働観光課長】

観光を担当していて、市民の意識と旅行会社の意識が違っていることを感じています。例えば、富良野や恵庭などの話ですが、川や山などの資源が豊富にあっても、実際そこに住んでいる市民は「うちの街には何もない。」という意識を強く持っていて、近いもの、当たり前すぎるものの価値に気付いていないということがあります。

また、本州の観光地の中でも、商業や交通の拠点だったような街は、正月やゴールデンウィークでも、お店を全部開けています。そこで、石狩で元旦に店を開けてお客さんを迎えるかとなりますが、北海道全体がそうではないので難しいと思います。

私たちは、観光資源を外に PR して行くことが非常に重要だと思っており、観光協会にも意識を高めていただいています。厚田浜益など、新たに自然資源も加わっており、旅行会社と組んで黄金山登山や濃昼山道を歩くツアー、それに加えてサクランボ狩り、温泉などを組み合わせた商品が定着してきています。

市民が石狩の鍋を食べて、サクランボ狩り、濃昼山道を歩いてみるなど、「うちの街にはこういうものがありますよ。」と言えるような教育をしていくことで、少しずつ住民意識が変わっていくと考えています。

【松井委員長】

石狩は北海道の中でも歴史が古く、合併して自然環境もかなり良くなっています。行政として観光カレンダーなども作っているのではないかと思います。来年以降、どんな事業を押し進めれば、次の相乗効果が出るのか挙げていただければ、もう少し手ごたえがあると思います。

【武田 商工労働観光課長】

石狩の観光で課題となっているのは、ワンウェイであることです。石狩から浜益まで海岸線の往復で旅行会社は作りたがらない。そこで、当別などを含め、広域観光を少しずつ広げて行きたいと考えています。そういう取り組みによって、今後、何らかの効果が出てくると思います。

【堀内委員】

観光の目的は、地場産業の育成が大きな目標なのか、単なる市の PR なのか。その目的は

一体どこにあるのでしょうか。

例えば、北広島のアウトレットは北広島市にとってはあまり恩恵がないように思います。農業者や漁業者が「もっと物が売りたい。」という意識が強いのであれば、市も協力しがいがありますが、市は何を目的として「振興」と言っているのでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

最終目標は、そこに住んでいる人たちが、自分達が住んでいる地域の良さを理解し、それを誇りに思えるということだと思います。ただ、経済政策として観光に取り組むのであれば、地域にどれだけ経済効果をもたらすかということになると思います。

北広島の話が出ましたが、あれは運営している所も、中に入っている店も、全部北広島じゃないそうです。そういう意味で、北広島にとっては外国と同じで、我々が目指しているものとは違うと思います。

ただ、集客力は凄いのので、それを他にどう活かして行くのが鍵だと思います。石狩市にはそういうものはありませんので、一から作り込んでいく中で、どれだけ地域に経済的メリットを落として貰えるかというあたりを考えて行くべきだと思います。

【武田 商工労働観光課長】

今までの旅行スタイルは、エージェン特型で旅行会社が主導して企画を作るという形です。これまでの石狩では目玉も少なく難しかったのですが、持続可能で自分達が出来る範囲で、まず受け入れてみようということを地域に持ちかけているところです。色々な成功例を重ねて行き、次の段階のきっかけづくりを進めています。

【松井委員長】

農商工連携の観光は進んでいますか。

【武田 商工労働観光課長】

グリーンツーリズムなどのツアーがあります。そばの収穫を絡めたものなど。

【松井委員長】

全体としてはありますか。

【佐々木 企画経済部長】

観光サイドからはグリーンツーリズムと言いますが、農業サイドからは乗って行きにくいという面があります。ある程度、設備投資も必要になりますので、夏シーズンの週末だけ観光客を受け入れてどれだけ回収できるのかというハードルがあります。

ですから、団体客を呼ぶよりは、札幌に近い立地条件を活かして「いつでも、少人数でパラパラ来てください。」といった観光スタイルを作っていければ良いと思います。

【松井委員長】

当別でやっていますが、当別はうまく動いているのですか。

【武田 商工労働観光課長】

グリーンツーリズムでいうと、失敗したと言われていています。手間ばかりかかって、ボランティアでやらなければならない、価格が合わないという状況です。

成功するとすれば、農業作物ではくだもの狩りくらいだと思います。新しい分野では農業体験、収穫などですが、地元はほとんどボランティア的であり、収益が上がるような事業にはなっていないという現実です。

【松井委員長】

そもそも、農業人口を増やそうという試みでしたね。

【武田 商工労働観光課長】

確かに、観光客とのふれあいなど、気持ち的な部分は交流できますが。

【佐々木 企画経済部長】

道から話を聞くと、そういう受入れはそれ自体で経済的なメリットを期待するのではなく、消費者と直のパイプを作り、直接品物を売るきっかけにできればいいということです。PRの一貫というイメージで捉えている人は多いです。

逆に言うと、PRだと割り切って付き合える余裕や力を持ったところしか出来ないという実態です。

【松井委員長】

ネット販売は動いているのですか。

【武田 商工労働観光課長】

各事業者に広まっています。観光協会だけではなく、楽天市場などに取りかかる場を行政が提供し、自分たちでネット販売を始める方たちが出てきています。

また、「とれのさと」はアンテナショップになっており、石狩の食文化を広め、お客さんを確実に増やしていくことも期待できます。

【松井委員長】

指標に関して、今年度は天候や番屋の湯の閉店などがあって厳しい感じがしますが、いかがでしょうか。残り一月ですが。

【佐々木 企画経済部長】

数的には、1週間、2週間で海水浴はいくらでも挽回できます。まだこの先期待はできません。

【長谷部副委員長】

石狩市で生産されている農産物は、主として農協を通して売買されているのですか。それとも個人、あるいはグループで消費拡大しようというスタンスでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

やはり農協です。

ただ、農業センサスの石狩の産出高は 40 億位ですが、農協の取扱高は 30 億位ですから、10 億は農協を通さないで売られているという感じがします。

実際の分析は難しいですが、戸別農家が「直接消費者に売っているよ。」という話をよく聞きますので、石狩は地理的にしやすい環境かも知れません。

【長谷部副委員長】

私も経験がありますが、石狩湾新港で朝 6 時ころから魚を売っている時期があり、宣伝次第で札幌圏からも地場産品を買いに来る方が増え、直接お金が落ちて活性化するのではないかと思います。

また、馬鈴薯やアスパラ、イチゴなどはどういう形で市場に出回っているのでしょうか。そういうものが、個人的、或いはグループでも、市販して石狩の活性化につながっているのかなと思ったことがあります。

お客さんを集めるにしても、そういった情報を知り得なければ人は動かないのではないのでしょうか。動かすためには、やはり目玉商品をどう PR していくかが重要だと思います。

売る方としては、すべて農協を通していけば宣伝は要りませんので。

【佐々木 企画経済部長】

樽川に直売所「とれのさと」をリニューアルオープンし、直売に力を入れることになりました。売れ具合がリアルタイムで農家に連絡されるシステムを入れるなど、農家の反応が全然違います。それまでは一回品切れになると、次は明日の朝となっていたのが、人によっては日に 2 回、3 回と持ってきてくれるようになってきました。

実際に、直に消費者の反応を見て売っていく経験が、それまであまり関心のなかった農家の目を見開かせたということです。農協任せにせず、消費者と直接向き合うスタイルを作っていくことも大事であると思います。

【長谷部副委員長】

消費者は値段が安いことも望むのですが、同じ商品であれば、朝採れたものがすぐに手に入るということは非常に好感的で、石狩市の宣伝にもなるのではないかと思います。

I T の活用はいかがでしょうか。例えば、農家グループに端末があつて、売れ筋の情報交換を行いながら PR をする、というような方法はどうかと思いました。せっかく良い農場があるので、観光資源と合わせて活用する手立てはないでしょうか。

【武田 商工労働観光課長】

売れ行きデータの分かるのですが。

【長谷部副委員長】

売れ残りから最後には分かるでしょうね。

【佐々木 企画経済部長】

「とれのさと」のシステムは、1個1個の売れている状態が分かるものです。それ以外の場面でのIT活用は、ということだと思います。

実際、直販を積極的に行っている農家は、注文をメールで受けるなど、皆インターネットを使っています。

【堀委員】

「とれのさと」ですが、去年は午後から品物がない状態でしたが、今は午後から行っても品物が買えるようになりました。

ただ、調理室は私が行く度に使われていませんが、市民が参加し、石狩の食材を使った料理講習会を開催するなど、もっとその活用を図ることによって、「とれのさと」が活性化するのではないかと思います。

それと、総合計画の「魅力ある観光ルートづくり」の中で、「日帰り型」、「滞在型」とあります。「日帰り型」は分かりますが、「滞在型」はどういうものを想定しているのでしょうか。

去年、合併後の街を見てもよ々と皆で誘い合い、バスをチャーターして浜益まで行ってきました。特に、参加した高齢の女性は、「車の免許を持っておらず、自分でここまで来られると思わなかった。」と話していました。やはり、交通アクセスに課題があると思います。

せっかく合併し、これだけの資源があるのならば、市民がもっと親しめる状況が作れないのかなという思いがあります。

また、鮭の定置網の企画はとても面白い取り組みだと思います。ただ、これだけの企画なのにこの参加人数というのが不思議ですが、参加者からは好評だったとのことですので、そういう意見をもっと市民に知らせていくことが大事だと思います。

【武田 商工労働観光課長】

「滞在型」は、観光計画が出来た時に、番屋の宿がありましたので、施設は少ないながらも、そこを起点に滞在してもらおうという仕組み作りを考えていたものです。

旅行会社向けの情報提供会社を通じて、番屋の湯を使った観光プランが出来ますという提案もしていました。

高齢者が楽しめる状況は、交通機関のない中では、やはり事業ベースに乗るか乗らないかということです。現在、シーブーツアーズで2,900円程度でやっていますが、そういうものを活用できればと思います。

また、機会あるごとにモニターツアーなどもやっていますが、現実問題はお金ですので、そこで金額が折り合うかどうか、「遠くの街へ行くのに3,000円は良いが、石狩で3,000円は。」という感覚もあると思います。旅行会社としても、ツアーはちょっと難しいというのが実状です。

【松井委員長】

厚田・浜益もそれなりに昔よりは何かやっていると感じます。

【武田 商工労働観光課長】

皆さん、少しずつ意識は変わってきていますので。

【松井委員長】

以前より、厚田の歴史館など有名になってきました。

【武田 商工労働観光課長】

「自分達の店だけ儲かればいい。」という感覚から変化してきていると思います。恋人の聖地や資料館、美味しいお寿司屋さんなど、色々なポイントがありますし、皆でPRすることが大事、そういう環境に少しずつなっていると思います。

また、浜益はもともと受け入れに際してもてなすことができる地区です。

農業者と漁業者は、生活リズムの違いから結び付きづらく、一緒に手を組んでやるのが難しいのですが、浜益ではグリーンツーリズムで一緒にやったことを通じて意識が変わり、「皆で何かしよう。」という気運が高まっています。

【松井委員長】

そういう面では、今後、行政が取りまとめて行くということによろしいですね。

また、商工会議所や町内会、青年会議所などがもう少し動くとも価値が上がると思います。石狩は店が少ないので、商工会議所の機能があまり見受けられないような気がします。

【武田 商工労働観光課長】

結構、頑張っていると思います。商店街として固まった所がなく分散している状況の中で、集客のための事業を商工会議所が中心になって考えています。

また、商工会議所と商工会は別組織ですが、厚田・浜益地区と連携しながらことにあたっているなど、非常に頑張っていると思います。

【松井委員長】

花川南地区の飲食店が閉店することが良く見受けられますが、そのことに対する仕掛けはできないのでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

今、商店街やお店屋さんを長続きさせるために何が必要かと考えますと、ハードではなくソフトであって、デパートやスーパーがやっているテナント管理のようなイメージで商店街全体をやって行かなければ、他の集客力のある施設に絶対勝てないということが見えてきています。

ただ、商店街でそれができるかという点、現実には出来ません。テナントの管理であれば「言うことを聞かないのであれば出ていけ。」という風に言えますが、商店街はそうは出来ませんから、結局、取り組みが中途半端になってしまいます。

そういう中でも、相当努力はしており、先日は花川南の斜め防風林でピヤガーデンをやっていました。また、夏の時期には商店街のお祭りや飲み歩きツアーなどもやっています

が、消費者が商店街の方を中々見てくれないという状況もあります。

【武田 商工労働観光課長】

お店によって温度差があるかも知れませんが、個店では人気のコーヒーショップなど札幌や北海道でも有名なお店がありますし、外に人が溢れて並ぶような食堂もありますので、やり方次第ということだと思います。

団体でやるということは、個店ではできないことを皆で出来る範囲でやっていくということだと思います。

【堀内委員】

そういったものがあることは、関係者は分かりますが、それ以外は分からないというのが現実ですね。もっとタイムリーにPRする場がなければ、広まらないと思います。近くの人が「石狩には良い所があるよ。」と口コミできるように、まず市民に対してタイムリーな情報発信をきちんとやる必要があるのではないかと思います。

私も、浜益でサクランボが採れることは知らなかったです。そういう発信がちょっと不足しているのではないのでしょうか。もっと足元から、先程の学校教育もそうですが石狩の良さを市民が知ることが必要です。

そして、市としてできることは、商業地区で頑張っている店の名前を紹介するなど、そういった機会を提供することが良いのではないのでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

そうですね。頑張っている所にはそれなりの応援をしていこうと思っています。どのように情報を行き渡らせるかが課題ですが。

【武田 商工労働観光課長】

浜益のサクランボは、観光の旅行会社もかなり知っていて、バスが溢れています。

増毛の果樹園も有名ですが、増毛では石狩の浜益でバスが全部止められて困ると話しています。

【堀内委員】

そんなにあるのですか。

【武田 商工労働観光課長】

北海道でも1、2の大きさの農園が石狩にあります。観光行政でいうと、石狩のサクランボというのは、ツアーを組む旅行会社に十分認知していただいていると言えます。

また、市民レベルの広め方としては、その仕組みをもう少し検討しなければならないと考えています。

【松井委員長】

企業でも言えますが、農業は高齢者がずっとやられているという現状ですね。

観光だけではないですが、頑張る体力のあるところは応援する、そうでないところは自分で納得がいったらやめてくださいというスタンスで、という気がしますね。

【長谷部副委員長】

私は藤女子大学に勤めていましたが、活用を上手にされていないという気がします。江別などは、大学の数も沢山ありますが、結構、大学間でグループを組むなどして街のイベントに参画しています。

石狩では一つしかないものですから、競争相手がいない、積極的に行政がアプローチしない限りは、あまり乗ってこないですね。

「あいロード」などで多少は女子学生を活用したり、バスを出すなどやっていました。

大学のバスも利用できますので、上手にイベントなどに誘い込めば、大学でチャーターしたバスが動くということがあり得ると思います。

ですから、石狩市として積極的に参画させるような、上手な取り込みをして欲しいと思います。こちらから「こういうことに協力して欲しい。」となれば、積極的に動くのではないかと思います。

【松井委員長】

大学ではそれを待っていると思います。

【武田 商工労働観光課長】

今年のサンドアートでは、教育大学岩見沢、札幌市立大学、札幌オオドオリ大学、生涯学習グループですけれども、その人達が作りました。藤女子大学にもお伺いしましたが、今回は辞退しますとのことでした。

ただ、色々な事業で、藤女子大学と観光は一緒にやっています、「あいロード」プロジェクトは特に評価され、企業の勉強会の材料にもなっています。また、経済ナビという番組では「藤女子大学と石狩」という視点で取り上げられ、石狩は大学と連携して活性化されていると紹介されています。

【長谷部副委員長】

藤女子大学も望んでいると思います。タダで放送され、宣伝効果がありますので大いに声掛けをしていただきたいと思います。

【佐々木 企画経済部長】

市では包括連携協定を結んでいますので、どんな分野で手を組めるかという意識を持っていました。ただ、バスを持っているとは知らなかったです。

【長谷部副委員長】

マイクロバス程度なら持っていますし、大きいものは大学として、たまには借上げると思います。

【岩崎委員】

観光でお客さんと呼ぶとしても、今はもう箱モノの時代ではないし、部長が縷々説明していた方向性で良いのではないかと感じています。

【松井委員長】

ソフト的な盛り上がりを継続的に作って行くことが大切だと思います。それを事前・事後報告で見える形にしていくことも。

それと、全体の行事やイベントが、市民に対して少しインパクトのある見せ方ができれば良いと思います。

【岩崎委員】

172万人の中にはサーモンファクトリーに来ているお客さんはカウントしていますか。

【佐々木 企画経済部長】

カウントしています。去年で12万5,000人来ています。

【武田 商工労働観光課長】

実際、非常に来ているように見えますが、冬場は大変なようです。

【松井委員長】

八幡や高岡の方には何かあるのですか。

【武田 商工労働観光課長】

ジンギスカンが有名です。北海道の郷土料理の3つに石狩鍋とチャンチャン焼き、ジンギスカンが選ばれたことから、「石狩に来ると全部食べられますよ。」という宣伝を市のホームページで行っていますが、その有名店は、これ以上こられても困るので「宣伝しないで欲しい。」と言っています。そういうお店もあります。

【松井委員長】

連動して行かないというのは何か内容が違うのですか。

【佐々木 企画経済部長】

連動しないというよりは、連動してこの状態かなと思います。市には大きい施設がないので、北海道の旅行専門誌などに中々取り上げられない。お金を払って書いてもらうというパターンです。

【松井委員長】

札幌市茨戸のホテルとの連携はどうなっているのですか。

【武田 商工労働観光課長】

石狩には宿泊先がないので、ガトーキングダムさんを利用していただくということも考えられますので、色々と連携していただいています。

雑誌の話題で、今年、全国で一番の旅行雑誌「るるぶ」に無償で石狩鍋が載りました。また、北海道で売り上げが一番のドライブ雑誌に厚田の海浜公園が出るようになってきましたので、着実に人の目に触れる機会が増えてきています。

【松井委員長】

全国的に、石狩の知名度はどのくらいでしょうか。

【佐々木 企画経済部長】

「石狩」という地名の知名度は高いですが、「石狩市」の知名度は多分低いと思います。

【武田 商工労働観光課長】

「石狩市というのがあるのですか。」と言われることが多いです。

【松井委員長】

海外、特に中国や台湾などに対する方策はあるのですか。

【武田 商工労働観光課長】

石狩単独では弱いと思います。関係者を招聘し、石狩の番組を撮って放映してもらってはいますが。

【佐々木 企画経済部長】

効果はどうかという点があります。結局、大量にお客さんを連れてくるためには、華僑資本が入った施設がないとだめなようです。市にはそれがないので、PRしても来ない。あとは、個人で動き回る人達に対して、どれだけアピールできるかが勝負どころだと思います。

【松井委員長】

日帰り圏で、何か美味しいものを食べて帰る、というようなことですか。

【武田 商工労働観光課長】

札幌には泊りますので、札幌から足を伸ばさせるための連携を強めることが大事だと思います。中国の観光客は話題になっていますが、日本の旅行業者は儲からない仕組みになっているようです。

～ 休憩 ～

【松井委員長】

それでは、再開します。

(1)の「現状の課題認識」では、各種取り組みの展開を理解したということで、指標については、よろしいですね。

【堀内委員】

海水浴は観光の柱となり得るのでしょうか。

【堀委員】

ないですね。天候に左右されると言いながら、新たな所を見出そうとしています。

【堀内委員】

多分それは分かっていると思います。それで、色々と新しいものを見つけようとしているけれど、中々大型のものが見つからない。地域の細々としたイベントや鮭鍋、藤女子大のスイーツなどをやっていますが、それは柱になる規模ではないということです。

大型施設がメインであれば、トータルで増えていくかも知れませんが、海水浴単独ではどうでしょうか。小樽のドリームビーチだってそんなに増えていないと思います。

【松井委員長】

「今後、種々の取り組みに期待します。」ということにします。

【堀内委員】

水洗トイレを作ったから来るかという、そういう問題ではないと思います。

【岩崎委員】

それも数年のPRでしかないですね。

【松井委員長】

観光とは何か、色々な取り組みがあったと思いますが。

【堀内委員】

「とれのさと」は何処がやっているのですか。農協ですか。

以前から「直売所」としてありましたが、今年から「とれのさと」となったようです。

【松井委員長】

樽川の選果場ですか。

【堀内委員】

「とれのさと」と聞いてもピンとこない、そういう認識ですよ。やはり、周知が下手なのか、それとも関心がないということですね。

結局、観光入込み数の減少の理由は、海水浴客が減っているということでしたね。色々な手立てをやっているけれども、その効果はあまりないということでしょうか。

【岩崎委員】

今まで、海水浴や番屋の湯が大勢を占めていたのしょうから、逆に言うと、170万人という数字は、そんなに大きく増える状況ではないと思います。

これから天気になれば、せいぜい数万人増えるという程度で、昔のように海水浴客が80万、100万人にはならないと思います。20年が42万人、去年は20万人も減っていると言っていましたので、それが40万人位に戻せるかどうかという程度だと思います。

【松井委員長】

アウトドア志向で無くなってきていることを含め、減っていきますね。

(2)と(3)は後で十分整理したいと思いますが、「観光事業の効果的なPRについて検討してください。」とコメントしたいと思います。

【事務局：松田課長】

現状課題の認識に関しては、この施策として、どういう部分について評価できる、どういう部分について不足しているという意見も出していただきたいと思います。

【岩崎委員】

指標1は「×」にはなっていますが、1万人程度の減でしたら、ほぼ達成していると言えると思いますが。

【堀委員】

ただ、実績値が173万人で、平成23年度の目標値はそれ以上、上向きです。

【松井委員長】

そうすると、海水浴への依存にこだわらず、入込み者数の向上を目指すということでしょうか。

集客の底上げを図ることが課題となっていますが、海水浴客の底上げのための方策はトイレの話だけでしょうか。

【事務局：松田課長】

去年はハード面はやっていませんので、その他はソフト、イベントは毎週取り組んでいると聞いています。

【岩崎委員】

イベントの強化というやり方が良いのでしょうか。

【事務局：松田課長】

裏を返すと、天候さえ良ければ人数がドンと増える可能性はあるということですが、果たしてそれで良かったと言えるのかという部分もあると思います。

そのことも一つの指標であるとは思いますが、持続可能な取り組みを色々行っていますので、そこを引っ張って行くことを考えることも必要かと思えます。

【松井委員長】

天候に左右されない観光事業を検討してくださいということでしょうか。

【堀内委員】

インターネットについては、アクセス数が増えていることは評価できる、創意工夫や斬新な企画で少しずつ興味を引いているという点で評価できるのではないのでしょうか。

爆発的ではないけれど、地道な活動が評価されているのではないのでしょうか。

【松井委員長】

インターネット効果は評価できる、今後、観光の盛り上がり期待するというコメントをコメントします。

【堀内委員】

市が出来ることはここまでやるけれど、問題は事業者、実行者がどう動くか、どう進めて行くかでしょうね。

【松井委員長】

指標1の検討と、海水浴の取り組みの相乗効果を期待するということを書いておきます。

施策の評価としては、農商工連携の「とれのさと」を活用し、一次産業と観光を分かりやすく融合してください、観光関係者の協働の仕掛けを動かしてください、合併後の旧石狩と厚田・浜益地区の特性を生かした観光事業を長期的に明示してください、藤女子大との連携を試みてください、という感じですが他に何かございますか。

【岩崎委員】

連携の強化は、藤女子大学単独ではなく、大学・教育機関でしょうか。

【松井委員長】

花川というのは、1学科ですか。3学科ですね。

【長谷部副委員長】

人間生活学部の中に、旧家政系の人間生活学科と、保育、食物栄養の3学科があります。

【松井委員長】

教育大もそういうことを待っています。札幌市民からすると、あいの里は遠い存在です。

だから、何か話があれば伺いますと先生は言っています。

【岩崎委員】

そうですね。教育大学ならば石狩とそんなに離れていないですから。

【松井委員長】

今後の方向性、施策の事業は幾つありましたか。

【岩崎委員】

6つです。7は重複していますので。

【松井委員長】

海水浴は良いですね。観光センター運営事業は。

【岩崎委員】

確かに減少はしているかも知れませんが、本町地区に来ている人の割合は、逆に増えています。

【松井委員長】

これに対してコメントすべきでしょうか。

【岩崎委員】

特に大きな課題、問題などがあればコメントするという事で良いのではないのでしょうか。

【松井委員長】

厚田観光施設運営事業、これはどうでしょうか。厚田の海浜プールなどですね。

【堀内委員】

ハードとして、海浜プールはできたのですね。

【松井委員長】

歴史館を PR していましたね。

この 7 つの項目の中で何かありますか。石狩観光協会運営支援事業は、一次評価でおもてなし力が不足しているとなっていますが。

【岩崎委員】

事務局体制を強化しなければならないということでもないだろうと思います。

観光協会に予算を分けて取り組みさせる、多分、今年のサンドアートもそういうことではないかと思います。基本的に自主運営という区分で、最初はお金が絡むことですので。

【松井委員長】

観光振興事業で2,300万円となっていますが。
このような観光資源の活用や整備、宣伝ということで、何かありますか。

【堀内委員】

観光協会として、お祭りのパンフレット、企画などをやっていると思いますが、問題はそこに参加する事業者の気運の高まりがどうなっているのかだと思います。

「さけまつり」や「ふるさと祭り」に参加したことがないので良く分かりませんが、その辺の盛り上がりはどうでしょうか。

【岩崎委員】

「さけまつり実行委員会」というのを組織してやっています。

【堀内委員】

観光のおもてなしの力が不足しているというのは、参画者、実行者の意欲があまりないということなのではないでしょうか。

【堀委員】

意欲がないというよりも、事業に関わっている人達が、「現状を打破するために、どうしていいのかわからない。」という実態があるからではないでしょうか。

ですから、先進事例やセミナー、こういう情報や機会を提供していこうとしているのだと思いますが、結局、そういうことだけでは難しいということが書かれています。

【松井委員長】

ノウハウが不足ということですか。

【堀委員】

私は、「おもてなし力の不足」が、どういうおもてなしの不足を捉えているのかということ質問しましたが、観光事業者の基本的な意識にかかっているという答えでした。

その基本的な意識というものが、どういう意識なのかなと思います。

【松井委員長】

おもてなし力の不足。考えてみればそうかも知れないですね。

【事務局：松田課長】

おもてなしの話ですが、「自分の店だけ儲かればいい。」という意識から、地域や多くの商工業者、一次産業者などが連携してやるというような高まりを見せてきている、その辺のことを言っているのではないのでしょうか。

【松井委員長】

私は、観光協会自体がこういうノウハウがないと反省しているのかなと思いましたが、そうではないのですね。

【堀内委員】

だから観光協会としては、各地の取り組みなど情報を提供するということですね。

【事務局：松田課長】

この観光協会運営事業は、観光協会の運営をどうするという事より、まさに協会を使って観光振興をどう図るかという事業です。

事業費の内訳にあるように、ポスターを作ったり、お祭りの支援や首都圏のPR活動など、色々なことを観光協会は事業の枠の中でやっていますので、その一つの要素として、受入側の意識をもう少し上げて行く必要があるという認識をここで示しているのだと思います。

【堀内委員】

それは良いことですね。気運が盛り上がりなければ、お祭りをやっても踊らず、踊り手がどれだけ意識を持っているかということですね。

イベントの中で一番活気があるものはどれですか。例えば、「さけまつり」、「石狩鍋復活プロジェクト」でしょうか。

【事務局：松田課長】

来場者が一番多いのは「さけまつり」です。

【岩崎委員】

そうですね。

【事務局：松田課長】

距離の問題もありますので、数字だけを拾うとそうなりますが、浜益・厚田のイベントも盛り上がりはあります。

【岩崎委員】

9月に3つの地区が、ダブらないように調整してやっています。石狩は札幌から、厚田は札幌や岩見沢から、それから浜益は札幌よりも北空知、滝川や深川などからの入込み客が多いです。また、浜益は鮭の他にホタテ貝などもあります。

【松井委員長】

観光資源の活用整備等の施策について、ハード施設については分かりましたが、ソフトの向上について、例えば、観光協会支援事業では事業者の機運を高める施策について次年度以降に検討してください、林道ウォークは参加者減になっていますので、それについて施策を再考してください、とします。

今後の方向性に関する意見というのは、総合計画を含めてありますか。

【堀委員】

総合計画の中で「滞在型」ということがあって、番屋の宿を想定しているのだろうと思いましたが、宿がなくなって、どう考えて行くのかなと思いました。これだけ細長い地域で、石狩市を堪能してもらうのであれば、滞在型は大きなテーマだと思います。

【岩崎委員】

浜益では9月から鮭釣りをやっていて、道外からも人が来るのですが、浜益に泊まるという方はそんなにいないです。札幌から来て朝の5時くらいから釣りをやっています。泊まるということは難しいのかも知れません。

【堀委員】

そうしますと、総合計画の見直しでは、滞在型を落としていくことになるのでしょうか。

【岩崎委員】

思い切って、滞在型と言う言葉を削除するという方法もあるとは思いますが。

【堀委員】

広域的に考えて、ガトーキングダムも視野に入れていくという可能性もありますので、全部を無くすということではありませんが、きっと作った時の滞在型というのは、石狩市にそういう施設があったからだだと思います。ただ、観光行政を考える時には、そういった施設を持っている不安定さも抱えるので、ある程度長いスパンで物事を考えて行く必要性があるのではないかと思います。

【松井委員長】

「滞在型」ということを、今後どのように考えていくのか検討してくださいということですか。

【堀委員】

それはさっき出していたので。

【松井委員長】

この中で、もてなしの心、ホスピタリティというのが2回くらい出てきますが、こだわってやっているのですね。

【堀委員】

この時点で課題としてあったのであれば遅いですね。今やっていることが取り組まれていなければおかしいですね。

【堀内委員】

協会の仕事として、そういったモチベーションを高めるとか、おもてなしのノウハウを研修させるなど、そういったテンポが遅いと思います。

【堀委員】

それから「とれのさと」は、ある程度、北広島の「くるるの森」を意識しながら作ったのかと思いますが、レストランでリピーターを育てることが出来るかというところではなく、また、体験をする所にしても、市民がそれを使えるという明確な位置づけがなく、そういう点から、とても中途半端なものになっていると思います。

「とれのさと」をメインにしていくのであれば、もっと市民がそこに参画できるような対応をして行かなければならないと思います。

【松井委員長】

総合計画の「おもてなしの心あふれる体制づくり」というのがありますが、次年度以降、具体的な方策を盛り込むように書きますか。

【堀委員】

事業所のところもそうですね。横串しを通すのだったら、せっかくそういうものが出来た時に、もっと市民や他から来る人が利用できるのであれば、そこがもっと広がって行くと思いますし、石狩の地場産もそこで使われるということですね。

【堀内委員】

それを農協がやっているのだと思いますが、そういう時に観光協会がどう絡んで、最終的なイメージをして行くのが大切だと思います。市民参画をどこまでやるのか、レストランはどの程度までやるのか。それと産地直送など、どれほど充実しているのか。

どこが主動的な役割をもっていて、最終的な形態は何を目指しているのかということが良く分かりません。

【松井委員長】

総合計画の中で、「市民一人ひとりの中に、ホスピタリティ（もてなしの心）が育つよう啓発活動を進め、観光ボランティアの育成につとめます。」とありますが、そのようなことは全く出来ていないということでしょうか。

【岩崎委員】

中々この「もてなしの心」というものは、難しいものだと思います。先ほど委員長が言っていましたように、今後の取り組みの推進、強化という文言にしかならないと思います。

【松井委員長】

事業の中に盛り込めるよう検討してください、進めてくださいという感じですね。強制的にあれやれ、これやれ、ということではないですね。

【岩崎委員】

そうですね。

【松井委員長】

後に何かございますか。時間ですので、一回これで意見としてまとめるのはどうでしょうか。

はじめに、「現状の課題」のところは、「指標1の天候に左右されない観光事業を整理し、次年度以降の指標を検討してください。」とします。

それと、「海水浴は観光の柱となり得ますか、今後、種々の取組みに期待します。」ということと、指標については、「インターネット効果は評価できる。今後、観光の盛り上がりを期待する。」とします。

観光資源の活用・整備及び施策については、「ハード事業については、了承し、ソフトについては、観光協会事業で事業所の啓発を高めてください。」とします。

「今後の方向」については、「観光事業の効果的なPRについて検討してください。」ということと、2つ目には、「総合計画に「滞在型」とありますが、今後どう考えるか検討してください。」、3つ目は、「総合計画の中のホスピタリティについて、施策に反映できることは検討してください。」とし、それと、「施策の目標実行を具体的にできるよう進めてください。」とします。

「施策等に関する評価」については、「農商工連携の「とれのさと」に見られる農産品の販売など一次産業と観光について分かりやすくしてください。」、2つ目に、「観光関係者との協働の仕掛けを上手に動かしてください。」、3つ目に、「合併後の旧石狩・厚田・浜益地区の特性を活かした観光事業を長期的に取り組んでください。」、4つ目に、「大学等の教育機関と観光に関する連携に努めてください。」ということに整理します。

～ 各委員了承 ～

【松井委員長】

それでは、これで終了します。どうもありがとうございました。

今回は、7月15日（金）9:00から、ここ庁議室で、施策『青少年の健全育成』について、ヒアリングを行います。宜しく申し上げます。

平成24年 1月10日 議事録確定

石狩市行政評価委員会 委員長 松井 義孝